

2017



J・A・C

(第40号)

千葉支部だより



平成 29 年 9 月発行

日本山岳会千葉支部

発行者 三木雄三

編集者 吉野 聡

事務局 〒283-0116

千葉県山武郡

九十九里町西野672-2

三木雄三方

T E L

E-Mail 支部だより参照

創立 10 周年記念海外登山 ロシア・カムチャッカ半島アバチャ山

坂上光恵



7月21日12:00成田発が15:50になり、ペトロパブロフスキーに着いたのは日付けが変わる頃。翌日からは全て予定通りで、まず22日BC近くのラクダ山(1150m)に行き、約3時間の雪渓や火山礫の上り下りは翌日のために有用な時間だった。23日夜来の雨が止み、朝7:30BC発アバチャ山に向かう。ガイドのアレックスにできるだけ多くのガイドを頼み、5人が来てくれた。14人で最初は火山礫のなだらかな稜線をひたすら登っていく。左手に鋭い円錐形にはっきりした雪がしまうまのようについていて美しいコリャーク山(3456m)。右奥には雪渓が張り

付いたアバチャ山(2741m)が見えてきた。2000m地点で昼食を食べながら、各人が斜面を前にしてこれ以上頑張れるかどうか自問自答し、そこまで来た11人全員が進むことに決定。外輪部と中心部の間の雪田を渡り、30度はある斜面にとりつく。富士山の下山道を直登するような感じ。最後にロープがあり、終わると頂上だった。全員一緒に頂上に立ったのは15:00丁度。あとは下るのみで、BCには20:00帰着。12時間半の行動だった。応援して下さった皆様に良い報告ができます事を御礼とさせていただきます。



千葉支部設立 10 周年にあたり

今後の 10 周年を見据えて

日本山岳会千葉支部のこの 10 年は、よちよち歩きの草創期。「組織の活動をどう軌道に乗せようか」と苦心惨憺(さんたん)の連続で、文字通り基礎固めの期間。諸先輩方のご苦勞に敬意を表します。

そんな中、IT に詳しい会員が文字媒体の「千葉支部だより」をネットで配信したことで千葉支部の存在を大きくアピールでき、その結果として会友や会員の拡大につながったことは、とても嬉しい出来事だった。

さて、今後の 10 年を見据えた場合、避けて通れないのは若い会員の獲得と、それによる支部活動の活発化だろう。そのためには現在の仲間たちが魅力ある支部活動を展開していくことが大切だ。

支部長 三木雄三



3 年がかりでやり遂げた「房総半島の分水嶺踏査」や、現在進行中の「郡界尾根踏査」などは、千葉色を打ち出した素晴らしい企画だと自画自賛している。

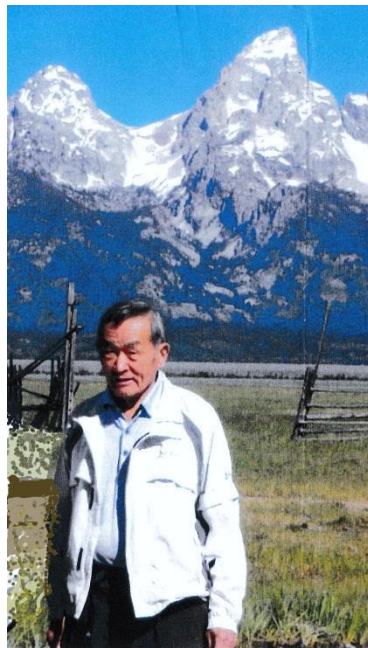
本支部の活動をますます充実、拡大していかなければと決意を新たにしている。

創立 10 周年を迎えて

10 周年記念事業委員長 吉永英明

平成 19 年、日本山岳会の中に千葉支部が創立され、10 年が経過しました。

創立当時、首都圏には支部が少なく、本部中心の運営では、会員のコミュニティの形成が難しく、活動の活性化を図るためには、首都圏においても支部を創設すべしという機運が醸成されていた時、初代支部長を任された篠崎支部長を中心とした方々が一念発起して創立されたものと認識しています。篠崎支部長には、



支部への入会者を募り、一体感をもった運営に尽力され、大変なご苦勞があったことと思う。敬意を表しつつ感謝したい。続く諏訪支部長、現在の三木支部長もこれを受け、低いながらも懐深い千葉の山々を中心とした活動を続け、支部員をまとめておられ、海外への遠征も現実のものとなってきています。

これからの 10 年、各支部員が山登りに益々精励されるとともに、若い支部員の獲得にも尽力し、末長い活性化を期待しているこの頃です。

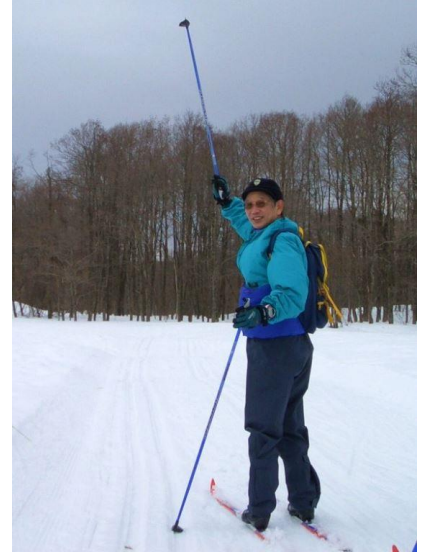
千葉支部設立 10 周年によせて

初代支部長 篠崎仁

設立 10 周年、大変うれしく思っております。平山善吉日本山岳会会長(当時)より設立の依頼があったときは、正に寝耳に水、丁度修士論文の締め切り目前で仕上げに追われていたところでもあり大変戸惑いました。とはいえ、2007 年 1 月、ころざしのある人たちに集まってもらい仲間たちの合意を得た後は設立に向け一気呵成に活動開始、10 人の発起人の人たちは労を惜しまず献身的に準備を進めてくれました。わずか 5 カ月の期間で、当初は 10 数名でも止むなしと覚悟していた支部加入者数は 100 名を超えました。第二代支部長の諏訪吉春さんは設立当初から苦勞を共にしてくれ、しっかりした基盤を創ってくれました。第三代支部長、三木雄三さんは新たな視点で活動を展開してくれています。10 周年を契

機として、これからさらに大きく飛躍する千葉支部の活動を心おどらせながら楽しみにしております。

(支部設立までの詳細な経緯は、今後のための記録として次号に寄稿します。)



前支部長 諏訪吉春

千葉支部設立 10 周年おめでとうございます。

支部設立当時からお手伝いをして来ました者として実に感慨深いものがございます。

2007 年 6 月の設立までの実に短い期間内での慌ただしさ、千葉支部主催の全国支部懇談会開催における一年に亘る長き準備期間等々が特に強い印象として残っております。この間、事務局長、副支部長、支部長として千葉支部会員、役員の皆様方の献身的な努力に支えられて何とか頑張れた事をここに紙面を借りて厚く御礼を申し上げます。

今や国民 25%を超える人口が 65 才以上となっている超高齢化社会の現実と向き合いながら、千葉支部も新たな 11 年目を迎える事になりました。小生の母校の校歌の一節に「・・・集まり散じて人は変われど、仰ぐは同じき理想の光」という

好きな文句があります。

支部設立に際しての理念は「新しい出逢いの場を作りクラブライフの向上に寄与する」です。現、三木支部長の許に会員・準会員・会友全員が総力結集して、この理想の光・理念を追求していく事を祈念する次第です。



スタッフ一言コメント



千葉支部に入会して10年、こんなに楽しい仲間と出会えて幸せです。
高橋正彦（監事）

郡界尾根が終わったら、次は坂東太郎（利根川）の最初の一滴を飲みに行く山旅をしたい。
山口文嗣（副支部長）



岩手県北の葛巻高原の安家森、遠別岳、平庭岳と歩いてきました。気持ちの良い高原でした。
塩澤 厚（監事）



カムチャッカの準備に始めたマラソンで踵を痛め断念、残念でした。
能美勝博（一木会）



豊倉さと子さんはじめ、素晴らしい山の先輩たちに出会えたことが宝物になり活力が生まれました。
高橋琢子（事務局長）



自然保護なんておこがましい。人間が自然に保護されているのだという事を肝に銘じて。
鈴木美代（自然保護）



東葛のサテライトは、山の重鎮達がいるので色々な情報が得られる。これぞ山岳会の本質のひとつであると思う。
坂上光恵（海外）



千葉支部では、公益事業と自然観察保護を担当しています。登山と写真と畑が趣味です。
山田紀夫（公益）



一般ルートから谷川岳に登って無い、チャレンジしたい。個人山行お誘い下さい。エコサイクル 31 年間実践中。
山本哲夫（山行）



山歩きと皆との語らいが大好き！晴香園の子供達とも下山する頃には歌も歌える、山はいいものです。
香高真奈美（公益）



最近最も驚き感激したことは出身高校（横浜翠嵐高校）の同窓生が支部に 3 人いたことです。
青木次郎（四水会）



初めての参加が台湾・玉山。グループ登山の楽しさ、千葉支部の力量を頼もしいほどに感じました。
安間繁樹（海外自然）



山に憧れ 山に親しみ 自然に触れ より高く より遠くをモットーに 究極の遊びの思い出づくりを続けたい
上村紀子（山行）



「リーダーをやれば山は 10 倍おもしろくなる」。支部の先輩から言われた事が最近ようやく分かってきました。
三田博（山行）



山も人生も、反省があってこそ進歩がある。次の 20 周年をめざし、今日も反省会で盛りあがろう・・・。
吉野聡（広報）



自然の中での美味しいお弁当、異常なお腹の出を気にもせずキーンと冷えたビールを飲む喜び。千葉支部有難う。
山崎完治（自然保護）



楽しい山行ができるように、会員、会友の意思疎通が図られる会でありたいと期待します。
湯下正子（会計）

千葉支部 10 年の足跡

平成 19 年		
6.24	京成ホテルミラマールで千葉支部設立総会。 篠崎会員（7343）を初代支部長に選出。 会員数 104 名。	
8.11	サッポロビール千葉工場で懇親ビールパーティー開催。	
10.14	鋸山の車力道コースをハイキング。	
平成 20 年		
1.19～20	新年山行と懇親会を兼ねて、岩井海岸の民宿に泊まり御殿山、富山、伊予ヶ岳への親睦登山。	
2.2～3	千葉、栃木、茨城の 3 支部で初の合同懇談会。日光湯元温泉で。	
3.15～16	内浦山県民の森に泊まり、清澄の自然観察会。	
4.5	花嫁街道・烏場山登山。	
5.11	京葉銀行文化プラザで千葉支部第 1 回通常総会と講演会。	
6.1	一宮町の軍荼利山へ自然観察ハイキング。	
8.28	ホテルニューオータニ幕張でビールパーティー。	
9.11～13	北海道支部との交流。旭岳登山。	
10.25～26	上高地山研に泊まりスケッチ、カメラ山行。	
11.30	南房総スイセンロードと津森山ハイキング。	
12.21	忘年ハイキングで大楠山。	
平成 21 年		
2.8～9	岩井海岸の民宿に泊まり、合同懇談会。鋸山と富山。	
5.16	千葉支部通常総会。	
5.17	千葉県最高峰の愛宕山ハイキング。	
5.30～31	上高地散策。	
7.4	麻綿原高原へアジサイハイキング。	
7.25～26	学習院日光光徳小屋に泊まり、男体山登山と周辺ハイキング。	
8.22	千葉港の納涼船で納涼ビールパーティー。	
10.11	第 1 回房総半島分水嶺踏査。一般参加も含め六地蔵から笠森。	
11.7～8	東大秩父演習林で自然観察会。	
11.15	大福山ハイキング。沢筋で道迷い。撤退。	
12.13	元清澄山で忘年登山。	
平成 22 年		
1.24	伊能忠敬講演会で香取市へ。	

日本山岳会千葉支部

2.6～7	合同懇談会で筑波山へ。
3.6	房総最南端の房大山ハイキング。
3.22	塩山市の小倉山でザゼンソウ見物ハイキング。
4.16	多摩森林科学園でサクラ保存林を見学。
5.15	千葉支部通常総会。
5.16	君津市の三舟山ハイキング。
5.21～22	上高地徳沢散策ハイキング。
8.21	東京ベイ幕張でビールパーティー。
9.11～12	那須岳登山と三斗小屋温泉。
10.17	君津市の高宕山登山。
10.24	「登山の医学」講演会。
11.14	一般参加者と分水嶺の清澄山を歩く。
12.12	弘法山と鶴巻温泉で忘年登山。
平成 23 年	
1.22	保田の嵯峨山で新春ハイキング。
2.12～13	合同懇談会で鳴虫山と日光世界遺産を見学。
4.23	安房高山登山。
5.21	関東ふれあいの道、笠森グリーンルートを歩く
5.22	千葉支部通常総会。
6.11	岩殿山ハイキングと名勝猿橋見学。
7.19～24	千葉支部設立 5 周年記念で小笠原自然観察会。
8.20	サッポロビール千葉工場でビールパーティー。
9.17～18	中禅寺湖に泊まり、高山登山と戦場ヶ原。
10.23	大菩薩嶺登山。
11.26	紅葉の石尊山から養老溪谷。
12.12	丹沢の大山で忘年山行。
平成 24 年	
1.14	布良大山ハイキングと安房神社の初詣。
2.11～12	合同懇談会で大房岬と館山野鳥の森。
3.3	ウグイス鳴く安房高山ハイキング。
4.14	ミツバツツジの鹿野山ハイキング。
5.19	千葉支部通常総会。
5.20	小湊鉄道飯給駅から御所塚山ハイキング。
8.5	富士山のお中道から大沢崩れハイキング。
8.18	柏高島屋でビールパーティー。
9.8	丹沢のクヌギ山登山。
10.20～21	九十九里浜を会場に「全国支部懇談会」。海岸歩きと笠森山。



全国支部懇オープニング
郷土芸能 獅子舞 (10. 20)

日本山岳会千葉支部

11.23	奥多摩の大羽根山ハイキング。
12.15	景信山で忘年山行。
平成 25 年	
1.12～13	北八ヶ岳の縞枯山から北横岳登山。
2.3～4	合同懇談会で茨城の生瀬富士へ。
2.16	館山市のサンゴ礁見学など自然観察会。
2.23	早春の鎌倉アルプスハイキング。
3.9～10	北八ヶ岳の天狗岳で冬山訓練。
3.16	房総半島分水嶺は 26 回の踏査で洲崎に到達、終了。
3.17	南房総の経塚山ハイキング。
4.20	桜の鹿野山で読図ハイキング。
5.3	300 名山の取材山行で丹沢大山。
5.18	千葉支部通常総会。諏訪吉春会員(14255)が第 2 代支部長に就任。
5.19	久留里線沿線の船塚山から俵田古墳山ハイキング。
6.8	300 名山の取材山行で赤城山。
6.30	児童養護施設「晴香園」の筑波山ハイキングを支援。
7.5～10	支部行事初の海外遠征で台湾の雪山へ。
8.10	サッポロビール千葉工場でビールパーティー。
10.26～27	300 名山取材山行で荒船山。
11.9	大菩薩牛の寝通り。
11.23	分水嶺踏査完了の記念イベントを房大山で。
12.7	支部主催「富士山と房総を語る集い」を中央博物館で。
12,14～15	300 名山取材山行で丹沢の塔の岳。
平成 26 年	
1.18	冬場の体力づくりを兼ねて手賀沼散策。
1.26	富山西尾根登山。
2.1～2	合同懇談会で松木溪谷散策と足尾銅山見学。
2.19	千葉支部設立時より支部に尽力した事務局長の豊倉さと子会員が死去。
3.8～9	高峰山と黒斑山登山。
4.6	南房総の木ノ根峠ハイキング。
3.23	「晴香園」の鋸山ハイキングを支援。
5.17	千葉支部通常総会。
5.24～25	大菩薩北尾根下降。
6.29	「山の日」記念で「房総の山と富士山を語る」シンポジウム開催。
7.5～6	初夏の上高地でカメラ散策。
8.2	鳴虫山ハイキング。
8.9	サッポロビール千葉工場でビールパーティー。



分水嶺最終地点
館山市洲崎 (3. 16)

日本山岳会千葉支部

9.20	「晴香園」の刈込湖、切込湖ハイキングを支援。	
10.7～12	第2弾の海外遠征で台湾の玉山登山。	
11.8	「山の日」記念、富山で自然観察ハイキング。	
11.15～16	初冬の神津牧場と荒船山登山。	
11.29	房総半島の上総と安房を分ける郡界尾根の踏査開始。	
平成27年		玉山頂上((10.9))
1.10	大坪山ハイキングと東京湾観音で初詣。	
1.17	手賀沼散策と鳥の博物館見学。	
2.7～8	合同懇談会。群馬が加わり4支部に。館山の房大山ハイキング。	
3.1	軍荼利山で自然観察会と酒蔵見学。	
4.18	栃木の太平山でお花見ハイキング。	
5.9	奥多摩の三ツドッケ登山。	
5.24	千葉支部通常総会。三木雄三会員(14445)が第3代支部長に就任。	
6.6	シャクナゲの西沢溪谷ハイキング。	
7.4	高溝溪谷で沢歩きと関大塚山登山。	
8.30	「晴香園」の御岳山ハイキングを支援。	
9.12～13	平標山登山。	
9.20	奥多摩の上高岩山で「敬老ハイキング」開催。	
10.3	「晴香園」の高川山ハイキングを支援。	
10.24	谷川岳天神平と一ノ倉沢周遊。	
11.8	カラマツの小檜山登山。	
11.15	銚子ジオパークの自然観察会。	
11.29	「晴香園」と奥多摩むかし道を歩く。	
12.12	忘年山行 石老山ハイキング。	
12.23	南房総の富山で鍋を楽しむ。「麗山会」と交流ハイキング。	
平成28年		
1.16	手賀沼で野鳥観察会。	
1.23	鎌倉の鶴岡八幡宮で初詣と衣張山ハイキング。	
2.6～7	合同懇談会。茨城の大洗。高鈴山登山。	
3.5～6	黒斑山と高峰山登山	
3.28	「晴香園」の茨城・宝篋山ハイキングを支援。	
4.9～10	全国支部懇で新潟。弥彦山ハイキング。	
4.16	花嫁街道 烏場山ハイキング。	
4.23	奥多摩の倉戸山でお花見山行。	
5.8	「晴香園」の岩殿山ハイキングを支援。	
5.15	千葉支部通常総会。	
5.28～29	南蔵王縦走。	

日本山岳会千葉支部

6.5	谷川岳一ノ倉沢で氷河地形の観察会。	 山の日記念 伊予が岳登山 (8.11)
6.10～11	空木岳登山。	
6.19～20	巻機山登山。	
7.9～13	女性会員だけの北アルプス表銀座縦走。	
7.15～17	東北の朝日岳登山。	
8.11	「山の日」記念で伊予ヶ岳ハイキング。	
8.20	千葉港ナイトクルージングでビールパーティー。	
8.27～29	北アルプスの穂高縦走。	
9.10	「山の日」記念。市川で山岳映画会を開催。	
9.24	ヒガンバナの巾着田から日和田山、物見山ハイキング。	
10.15～16	瑞牆山から金峰山縦走。	
11.12	本社ヶ丸登山。	
12.11	親子登山。「茂原市子どもセンター」と富山ハイキング実施。	
12.17	「晴香園」の陣馬山ハイキングを支援。	
12.23	忘年山行。房州アルプス。	
平成 29 年		
1.7	嶺岡浅間、高鶴山で新年山行。	
1.15	西印旛沼散策。	
1.21～22	三ツ峠。	
2.11	宝登山でロウバイハイキング。	
2.18～19	合同懇談会で群馬へ。神成山ハイキング。	
3.11～12	八ヶ岳・硫黄岳登山。	
4.2	三毳山でカタクリハイキング。	
5.5	「晴香園」の扇山ハイキングを支援。	
5.13	千葉支部通常総会。	
6.3～4	尾瀬燧ヶ岳	
6.10～11	佐久の御座山と高峰山。	
7.21～25	千葉支部 10 周年記念でカムチャッカのアバチャ山へ遠征。	
8.26	千葉支部創立 10 周年記念式典を船橋で。	

千葉支部の現況 会員 95 名 会友 48 名 (平成 29 年 8 月現在)

支部山行尾瀬燧ヶ岳

平成 29 年 6 月 3 日(土)～4 日(日)

山本哲夫

前夜浅草発 東武夜行 尾瀬号 23 時 55 分
座席倒れない電車、会津高原駅からバス 3 台 90
名程度 ゆったり。沼山峠で少し霧雨から雨が止
んだ。燧ヶ岳山頂は雲に覆われていた。沼尻分岐
で見晴グループと燧ヶ岳グループ(山本、齋藤)に
分かれた。赤テープを目標に地形から直線的なル
ートを選び登った。ミノブチ岳手前から風が強く、
視界も悪く雨に。靴に滑り止めを装着し雨具を着
こんだ、カメラは濡れないようにザックに。俎崙
の尾根は積雪がなく夏道。風は時折強い。俎崙山
頂から足早に柴安崙に向かった。柴安崙直下は急
な雪壁。ステップは滑り下りた跡に少し残ってい
た。ストックを頼りに、確実なキックステップを
刻んだ。高々 30m と思うが、長く感じた。尾瀬
20 数回目に於いて初めての緊張感。やっと抜け
ると柴安崙山頂。雪が少し降っているがカメラを出

した。直ぐに男 1 名女性 2 名の 3 人パーティー
がピッケルを持って上がってきた。大きなステッ
プをありがとうと。簡単に上がってきたらしい。
雪の無い尾根を下ると、急な雪の斜面。自分の簡
易滑り止めは、効果なくずるずると滑った。谷筋
に下りてからも、良く滑り、確実な滑り止めが必
要だった。予定より、大分時間が過ぎてしまった。
水の流れている登山道、やっと沼からの木道が現
れた。燧小屋の受付は三田さんが済ませ、日本山
岳会の割引を有効に利用してくれていた。重かつ
たザックの 1.8L 南部美人を受付のお兄さんに託
した。直接見晴グループは、滑る木道に苦労した
らしい。以後朝まで弱い雨が降り続いた。翌日は
鳩待峠経由に変更。富士見峠方向の水芭蕉の群落
を見学。雨も止み、中田代、牛首、上田代、研究
園と写真を撮りながら鳩待峠に。



(贅沢な新緑)



(燧ヶ岳と尾瀬沼をバックに)

参加者：山本哲夫、三田博、齋藤米造、羽藤美代子、櫻田直克、梶田義弘 (敬称 略)

おぐらさん
佐久の名山御座山とシャクナゲの高峯山

6月10日(土)～11日(日) 齋藤米造

6月10日北陸新幹線佐久平駅集合。レンタカーで御座山南面唐沢登山口1425mを10:40出発。曇り空、新緑の中を11:35不動の滝着。1800m地点から見え始めたミツバツツジが、2000m地点ではピンクの花を美しく咲かせていた。ここから急登となり連続した鎖場を慎重に登る。稜線に近づくと足元にコイワカガミの可愛いピンクの花が



現れ、疲れを癒してくれた。葉の先がお米のように見えるコメツガの幼木も見られた。

13:35 御座山 2112m山頂。帽子が飛ばされるほどの強風で、厚い雲が垂れこめ、眺望は望めなかった。記念撮影後、少し下った避難小屋で昼食とする。

14:15 避難小屋発、16:10 登山口に帰着した。

廣村さんは今回が初めての2000m峰挑戦だったが、琢子さんや三木さんから終始“いいよ、大丈夫だよ”と優しい励ましを受け、鎖場もしっかりした足取りで登り切り、自信を付けた様子だった。



《6月10日 御座山山頂》

麓の滝見の湯で汗を流した後、今夜泊めて頂く小澤さん宅に向かう。

小澤さん手作りの夕食は、山菜の天ぷら、鯉のあらい、うどの煮物や佃煮などなど、佐久の味覚

参加者：山口文嗣（L）、三木雄三（SL）、高橋正彦（SL）、高橋琢子、山崎完治、廣村恵美子、小澤けい子、齋藤米造（敬称 略）

が満載で一同大満足。お酒もたっぷりいただいて、持参のシュラフに潜り込んだ。

6月11日、昨夜の雨が上がり快晴。鯉こくと筍ご飯という贅沢な朝食をいただき、レンタカーで小澤さんを加えて8名で出発。当初黒斑山の予定だったが、シャクナゲの咲く高峯山に変更。

9:40 車坂峠 1973mを出発。高峯山 2106mまでは、コースタイム40分のところ、倍の80分かけて山頂へ。“今日は自然観察会。ピークハンティングするも良し。ゆっくり花を愛でる山もまた良し”と誰かがつぶやいた。

登り始めてすぐ、クロマメの真っ赤なつぼみが足元に見え出し、やがてハクサンイチゲが真っ白な小さい花を付けている。

最初の小さなピークに着いたところで“彩雲だ”という三木さんの声に後ろを振り向くと、鮮やかな青・緑・赤の虹色に染まった彩雲が、まるで天女の羽衣のように佐久の空に浮かんでいた。



頂上に近づくにつれ、開花して間もないシャクナゲの群落が斜面いっぱいに広がっている。

11:00 高峯山頂上着。澄み切った快晴の展望は360度。焼岳から五竜岳までの北アルプスの白い稜線がくっきり浮かんでいた。



《6月11日 北アルプスを背景に高峯山山頂》

ウェストン祭に参加して

宮崎美智代

6月3日(土)・4日(日)山研運営委員会主催の新入会員の為の徳本峠越えとウェストン祭に参加した。W・ウェストンの足跡をたどり、島々谷から徳本峠を越えて、山研に一泊、翌日「碑前祭」に参加するという行程で、山岳会の方から素晴らしいので是非参加するといいいと、お墨付きだったので楽しみにしていた。千葉支部からは2名の参加で、多方面の支部の方が集まる中で心強く感じた。私達は東京発の夜行バスで集合場所入りした。

3日早朝、天気もよく冷んやりと引き締まった空気の中、出発式を行い、午前6時10分徳本峠へと出発した。信濃支部の方のコース説明では、気を付けたい箇所はあるが残雪は少なくアイゼンの



必要はないとの事で一安心。二輪草が満開ですとの嬉しい情報もあった。上高地まで20キロと長い峠の景色と、登山道に咲く花々を楽しみながら行きたいと思った。ス

タートして間もなく地元の小学生の隊に会い、峠まで抜きつ抜かれつ賑やかな登山となった。水量の多い川沿いの道は、道幅も広く歩き易く新緑が

鮮やかだった。途中、戦国秘話が記された碑の前では歴史と伝説が残る古道歩きの楽しみや残して行く大切さや大変さのお話を伺った。二股からは細い登山道となり幾つも橋を



渡って、今日のお昼休憩の岩魚留小屋に到着。お腹を満たし小屋近くの巨木に癒され又、峠を目指した。沢を離れこのコース一番の急登に疲れが出てきた頃、最期の水場で冷たい力水を頂いて、とうとう徳本峠に到着。目の前には明神岳・穂高岳連峰の素晴らしい景色が見え、今迄の疲れを消してくれた。下山は予定通りアイゼンなしで、二輪草が満開に咲く明神に出た。そして午後4時30分楽しみにしていた山研に無事到着。この夜は美味しい料理とお酒を用意して頂き各支部の方々との交流を深め、楽しい時間を過ごした。

翌朝は、第71回ウェストン祭に参加した。キラキラと輝く木漏れ日の中、地元の小学生の歌声が快く響いた。今回は山研委員会の方や他、多数の方々にお世話になり思い出深いものとなった。

郡界尾根踏査の報告

第14回 平成29年3月5日(土)
鴨川有料道路→鍋石分岐→黒塚番所跡
→金山ダム 齋藤米造

先日の郡界尾根踏査では、予定のルートを用意通り完了でき、充実した一日でした。

私は2回目の群界尾根でしたが、改めて房総の山の難しさを実感しました。先日、昔の山仲間からヤマケイ文庫の『道迷い遭難』を借りて“2003年11月麻綿原高原の30人パーティーのビバーク”を読みました。自分が郡界尾根踏査に参加する前、房総の山を知らなかった時なら“なんてアホな”と思ったでしょうが、今は実感としてその状況が理解できます。

3000メートルの稜線の単独行は出来ても、今回のルートの単独行は自信ありません。

地元の山を知り尽くした鈴木さんですら、一人で途中から引き返すのはちょっと不安、と謙虚に言われていたのが印象に残りました。



《鴨川有料道路駐車場から出発》

参加者：山口文嗣、三木雄三、岩尾富士夫、山崎完治、小澤けい子、山田紀夫、齋藤米造、鈴木操（敬称 略）

第15回平成29年3月19日(日)
金山ダム→斧落隧道→黒塚番所跡→元
清澄山→清澄寺 山口文嗣

前回下山地点の黒塚番所跡まで登る関東ふれあいの道はアップダウンが多く、時間がかかるため、地元鈴木さん推奨の金山ダム左俣の途中から登るルートを取った。金山ダムの吊り橋を渡り、右へ行かずに、左に行く。斧落隧道を潜り、二つ目の隧道手前から右の樹林帯の中に入る。途中昔の切通し状の場所があり、古くから使われていた道のようなものである。急な登り下りもなく、30分ほどで郡界尾根（分水嶺）の途中に出た。鍋石分岐と黒塚番所跡との中間あたりで、主尾根が崩壊して白壁状になった所をトラスする地点であった。さすがに地元の人がいると心強い。

ここからは旧知の尾根を黒塚番所跡へ、そこから最後の急登で元清澄山へと到着した。元清澄山から急な階段を下り、三石山への分岐を見送ると、ゲートのある広い林道に出る。東大演習林の郷台林道入口である。ここから郡界は分水嶺と離れ郷台林道沿いに北へと食い込んで行く。演習林内の踏査は秋以降の課題として、今回は林道をのんびりと清澄寺へと向かった。



《金山ダムを渡って
郡界尾根を目指す》

参加者：山口文嗣、三木雄三、高橋正彦、山崎完治、小澤けい子、高橋琢子、山田紀夫、吉野聰、上村紀子、鈴木操（敬称 略）

初めてのヒマラヤ

青木次郎

私が入会を勧められたのは、初めてのヒマラヤの帰りに同行の中山氏（群馬支部）から強く勧められ帰国後に入会の手続きをして入会しました。中山氏とは 50 年余の山友達で八ヶ岳の山小屋でアルバイトをし、その後数々の山行を重ねて現在も時々山に行く仲間です。

さて初めてのヒマラヤは 2012 年 10 月～11 月にかけて 25 日間の山行でした。目的地はゴークョピーク（5,360 メートル）で、カトマンズ→ハクラ→ナムチェ→マツツエルモ→ゴークョ→ゴークョピークの行程で山中 17 泊カトマンズ市内 5 泊。その他機中泊等でした。ナムチェの裏のエベレストホテル展望台からのエベレストの勇姿には感動しました。天候も良



（エベレスト、ローチェを背に 5000 メートル付近）

ードを食べながら昔話に花を咲かせました。彼はカトマンズに常駐し現地ではエベレスト登頂者として、又、様々な社会貢献をされていてかなりの有名人であった。帰国後には中山氏と度々会って次回のヒマラヤの計画をし、目標をメラピーク（6,476 メートル）とし、2014 年 5 月に挑戦したが、この年はエベレスト BC にて雪崩で多数の死者をだした年で非常に天候が不安定で、我々も 10 日間かけて BC まで行ったが、ガイドの判断もあり、私の体調も悪く下山を余儀なくなった。今後、体調を整え&鍛えて再度ヒマラヤに行こうと思っている今日この頃です。



（ゴークョピーク頂上にて）

く快適なトレッキングで途中 600 メートル程の急坂が 3 ヶ所あったが 11 月 9 日にピークに登頂できました。山頂からの展望は 8,000 メートル級の山並が絶景でした。チョオユ、エベレスト、ローチェ等見事な景色でした。下山後にはカトマンズの世界遺産を 3 ヶ所巡り、又、偶然にも会社の同僚であった石黒久氏にも会え、彼にカトマンズ市内でネパールダンスを見ながらロキシー（現地の酒）を飲みダルバ



（チョオユを背に 中山氏と）

晴香園の子ども達と扇山へ

29.5.5（金） 廣村恵美子

5月5日、こどもの日、晴香園の子どもたちと初めて一緒に扇山登山に参加しました。

祭日、晴天で8時50分鳥沢駅に着き、バス待ちの行列が出来ていて一台では乗り切れず臨時バスが出ていました。

梨木平までみんな立ちっぱなしでした。その中から見えました！富士山。本当に美しい姿で感激です。

自己紹介がすんで9時35分扇山に向かって出発。途中で水飲み場がありました。1時間ほど行くと右に道がありツツジ群生地です。子どもたちとリーダーはそのまま頂上へ、大人たちは右の道を下りました。満開ではないので



すがオレンジの花があちらこちらに咲いていて期待していたツツジを楽しみました。

ツツジも綺麗で

すが新緑もとてもキレイです。晴香園の子どもたちの元気な明るい姿に和まされました。

12時頃漸く山頂に到着。昼食です。頂上は広々としてとても良い展望です。いよいよ富士山を眺めようと探しました。・・・晴天なのに雲の中に富士山が隠れてしまい、チョット残念。

バスの中での絶景の富士山、ツツジと新緑を楽しめ心に残る扇山となりました。



こんにちは

山は生きがい

羽藤美代子

昨年の秋に千葉支部に入会させていただきました羽藤美代子です。

私が育った田舎は奥州市、平泉、一関市の境界に位置する標高600メートルたらずの東稲山（たばしねやま）の麓です。東稲山は「ままもせず 東稲山のさくら花 よし野のほかに かかるべしとは」と西行法師が詠んだほど平安当時は一山が薄桃色に見えたようです。

東稲山からの続きにある経塚山からの眺めがすばらしくて奥羽山脈の焼石岳と北上川が大きく蛇行している胆沢平野を見ることが出来とても好きなところなんです。思い返してみれば山が好きになった原点かもしれません。

昨年秋から皆様の山行にも仲間入りさせていただいています。

歩きながらの楽しい語らいの中で、花を愛で、鳥の声を聞き、水の音を感じ、木々の緑に癒され生きている実感がします。

少々重い体ですが、頑張って歩きたいと思います。今後ともよろしく願い致します。



千葉県内一等三角点探訪記 5 山口文嗣

高神村（こうじんむら）標高 73.62m

100mに満たない高さではあるが、下総地方の最高点であり、千葉県内最東端の一等三角点である。銚子の犬吠埼の近く、地球の丸く見える丘展望館の2階外側、愛宕神社と日比友愛の碑の間にある。愛宕山は高神愛宕山（たかがみあたごやま）とか天王台とも呼ばれていて、眺めは良く鹿島灘から利根川、犬吠埼、屏風ヶ浦と360度の展望が広がっている。

三角点名	高神村
山名	愛宕山
設置場所	山頂
保存状態	良好

（平成24年7月24日訪問）



愛宕神社祠の三角点



愛宕山からの屏風ヶ浦

柳沢（やなぎさわ）標高 17.87m

千葉県内最北端の一等三角点である。東武アーバンパークライン愛宕駅北東800mの国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所敷地内にある。事務所建物の裏手の草むらの中の地中に埋もれていて、廻りをコンクリートで固めてある。

三角点名	柳沢
山名	なし
設置場所	官公庁敷地内
保存状態	良好

（平成24年9月8日訪問）



江戸川河川事務所



草に埋もれた三角点

お知らせ

●会員の動向

新入会員	K. G さん	船橋市	(10302)
新入会友	K. S さん	八千代市	
	S. S さん	茂原市	
	T. E さん	大網白里市	
退会	N. T さん	千葉市	(16030)
	N. T さん	柏市	(4533)

●メール会員登録のお願い

千葉支部のメール会員に登録すると、千葉支部報は郵送されなくなりますが、代わりに PDF 版がメールにて配信されます。そのほか、他の支部報や本部からの情報もメールにて随時提供いたします。登録を希望する会員・会友の方は、メールにて事務局長・高橋琢子まで御連絡下さい。メールは支部日より参考

●西表島探検 安間繁樹会員の新刊書

「…あれから 37 年、何かを思いだそうとするのだが、何も出てこない。まあいい。自分が今、こうして 西表島を歩き続けていられることに感謝することにしよう…」。1965 年に初めて西表島を旅したとき以来、イリオモテヤマネコの研究をフィールドワークとしてきた千葉支部会員、安間繁樹さんが観光では味わうことのできない西表島最深部の魅力を紹介したのが『西表島探検 亜熱帯の森をゆく』。(あっぷる出版・2400＋税)。本書は 2005～2011 年までに安間さんが歩いた西表島の奥地紀行である。問合せ、あっぷる出版(03-3294-3780)。



●“親子で楽しむ山登り” 清澄山ハイキング、サポーター募集します。

千葉支部は、山の日記念事業の一環として子供たちに自然に接する機会を提供しようという茂原市子どもセンターの清澄山ハイキングを支援します。親子が内浦山県民の森から清澄山を目指して歩きます。子どもたちの安全とともに山の楽しさを知らせるサポーターを募集します。

期日 平成 29 年 12 月 10 日 (日)

申込及び詳細は 高橋琢子 メールは支部日より参考

役 員 会 の 報 告

6月報告 6月20日(火) 市川アイリンク

出席者 上村、坂上、鈴木、高橋、三木、山口、山崎、山本、湯下、吉野 10名

- ・10周年記念式典準備状況の報告
- ・支部だより 10周年特集 支部10年間の歩み、歴代支部長あいさつ、実行委員長挨拶
スタッフからの一言 ビアパーティ今年度は実施せず(時期の重複)
- ・カムチャッカ遠征に向け現況報告(14人参加予定)

7月報告 7月18日(火) 市川アイリンク

出席者 上村、坂上、鈴木、高橋、三木、三田、山口、山崎、山田、山本、湯下、吉永、吉野 13名

- ・関東7支部情報交換会の報告 (概要 下欄)
- ・支部だより 10周年記念号の進捗状況 今回は20ページ
- ・式典(船橋グランドホテル、8月26日(土)13:00から 参加者(来賓含め) 60名見込む
- ・式典、講演終了後 カムチャッカ遠征報告 ・役割分担の確認

関東7支部情報交換会の概要

7月8日、市ヶ谷・JACルームで、関東地区の7支部(千葉、東京多摩、神奈川、埼玉、茨城、栃木、群馬)担当者が集まり各支部の取り組んでいる事業の情報交換を行った。親子登山、自然観察会、障がい者登山、登山教室の運営など事例発表して意見交換をした。千葉支部からは山口副支部長と三田が出席し、「郡界尾根」「晴香園山行」を発表した。東京多摩支部は登山教室の修了生を中心に会員を迎え入れ、若返りを図りつつ会員数は設立7年で100名増、300名超の大所帯になったと説明。また会員がそれぞれ委員会・同好会に所属して活動するなど、支部活性化のヒントになりそうな事も聞くことが出来た。千葉支部でも他支部の好事例をぜひ参考にしていきたい。(文・三田 博)

編集後記

九州北部豪雨及び秋田、新潟の豪雨で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。線状降水帯と言って、発達した積乱雲が次々に大量発生して線状に塊り、数時間にわたりほぼ同じ場所に非常に強い雨を降らせるのだそう。知らなかった言葉だが、すっかり有名になってしまった。一方、千葉では全くのカラ梅雨で7月に雨らしい雨は全く降らず、畑の作物が干上がって、暑さと闘いながら毎日水やりに追われている。雨も日本全土に平均して降ってくれないものかと思わずにいられない。

本号は千葉支部創立10周年記念として、3代の支部長、10周年記念事業委員長からの寄稿及び支部10周年の歩みを掲載した。皆様の10年間と千葉支部の10年間にどんな関わりがあったのか本号で改めて思い起こしていただければ幸いです。

山 行 の 予 定

(9月10日以降、支部行事等含)

行き先	日程	申込先	締切	備考
足利・大小山	9.10(日)	三木 雄三 メールは支部だより参考	9.5(火)	「大と小」ツイン の山名の山
南ア・光岳	9.15(金) 9.17(日)	山本 哲夫 支部だより参照	8.31(木)	15日朝発 小屋泊まり 5名まで
奥多摩・三頭山	10.28(土)	山口 文嗣 支部だより参照	10.19(木)	都民の森から都 内唯一のブナ林 へ
西上州・諏訪山	11.5(日) 11.6(月)	坂上 光恵 支部だより参照	10.2(金)	西上州最奥の山 歩行8時間以上
日和田山・物見山	11.25(土)	湯下 正子 支部だより参照	11.18(土)	公益事業 晴香園
郡界尾根第16回 17回 18回	11.12(日) 12.16(土) 1.28(日)	山口 文嗣 支部だより参照	11.2(木) 12.7(木) 1.18(木)	東大演習林から 内浦山県民の森 へ
養老溪谷 大福山	12.9(土)	三田 博 支部だより参照	12.1(金)	小湊鉄道で行く、 日本一遅い紅葉
親子登山	12.10(日)	詳細18ページ		
忘年山行三つ峠	12.23(土) 12.24(日)	山本 哲夫 支部だより参照	12.10(日)	現地集合 A 笹子駅 B 三つ峠駅
新年山行 津野辺山から 水仙ロード	1.13(土)	山口 文嗣 支部だより参照	1.6(土)	スイセンの香り 漂う里山歩き
笹尾根	1.20(土)	湯下 正子 支部だより参照	1.6(土)	公益事業 晴香園

*電話での問合せは、支部長^{み きゅうぞう}三木雄三宛てにお願いします。(TEL)

印刷

三陽メテア株式会社